

チャバネアオカメムシの越冬状況（令和6年2月調査）

ナシ、カキ、リンゴなどの重要害虫であるチャバネアオカメムシ（写真）の越冬数の調査結果をお知らせします。

本年2月上旬頃に山林の表層土を含んだ落葉を1地点当たり30リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査しました。落葉の採取は常陸太田市、水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、行方市、鉾田市、石岡市、つくば市、桜川市の合計42地点で行いました。

その結果、越冬成虫数（本年値9.7頭、平年値1.9頭）は平年より多く、越冬地点率（本年値86%、平年値40%）は平年より高くなりました（表）。

本年を含む過去11年間の越冬状況の推移をみると、越冬成虫数・越冬地点率ともに多い年と少ない年を交互に繰り返しており、本年は多い年にあたります（図1）。そのため、越冬世代成虫の果樹園への飛来数（4～7月）は、平年より多いと予想されますので、注意が必要です。

また、昨年のチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は、4月から7月までは平年並、8月、9月は平年より多くなりました（図2）。また、クサギカメムシの誘殺数も平年より多く、平年、発生の少ない温暖性のカメムシのツヤアオカメムシ、アオクサカメムシの発生も平年より多くなりました（データ省略）。

病虫害防除所では果樹カメムシ類について、予察灯調査（4～10月）や、サクラにおける発生量調査（4～5月）を行いますので、今後発表する情報を参考にしてください。

表 チャバネアオカメムシの越冬状況

調査項目	令和6年2月		平年
	調査値	順位 ²⁾	調査値
越冬成虫数(頭) ¹⁾	9.7	1位	1.9
越冬地点率(%)	86	1位	40

1) 成虫数/落葉30リットル当たり
2) 本年を含む過去11年中の順位



写真 チャバネアオカメムシ(成虫)

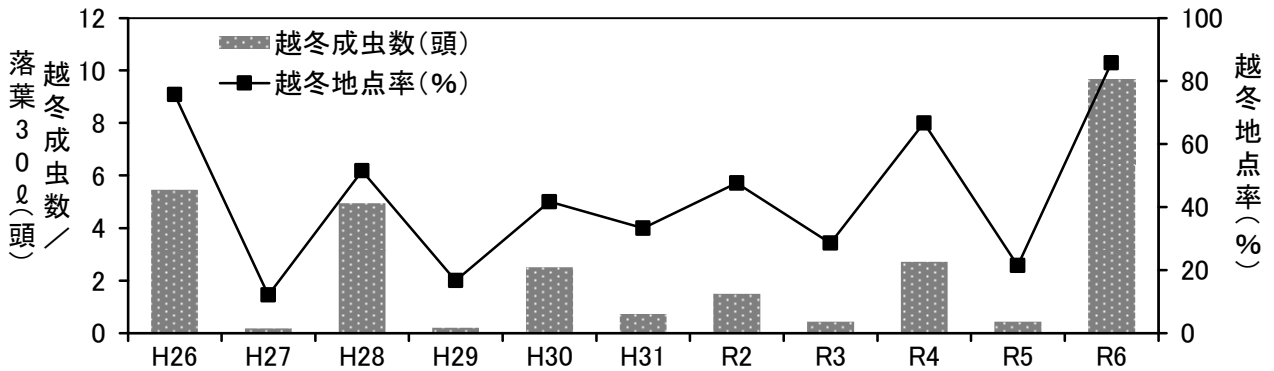


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫数及び越冬地点率の年次変動

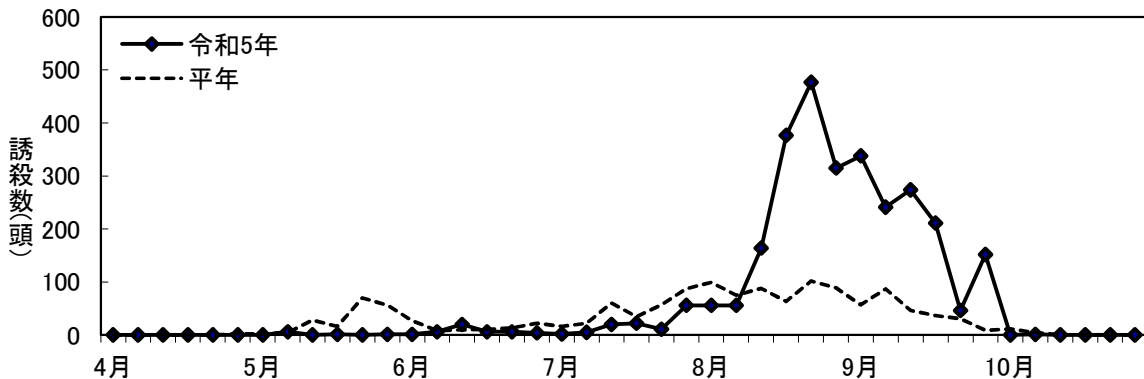


図2 チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数（かすみがうら市）